

特集

いま、愛媛で 何が起きているのか

1987年の創刊以来、今号で20周年を迎える弊誌は、「デザインも含めた誌面づくりで、さまざまな変化を遂げている。まちづくり情報誌として多種多様な事例を取り扱ってきたが、いまだトピックが尽きる事はない。それは「まちづくり」という言葉の普遍的な広がりを意味している。

「まちづくり」に終わりはなく、分野も無限だ。「まち」も「まちづくりの手法」も日々変化し続けている。そんな中で、何かしらの共通項を見出すとすれば、そこに「人」があり、その「思い」や「哲学」、「生き様」があるといったところだろうか。「まちづくりは人」だとは、20年前からすでに言われて、いまなお説得力を持ち続けている。

このところ、統一テーマに沿った編集で分野を掘り下げてきた弊誌だが、今号では創刊当時を意識して(?) 現在進行形

の愛媛をフンダムに切り取ってみたい。

完成形ではない、今まさに走っている各地の動向と、そこに関わる人々の思いから、その後20年経過した、リアルタイムな愛媛を透かして見ることはできないだろうか。

◇ ◇ ◇

特集ではまず、今年度、愛媛県の最重要施策と位置付けられた南予地域の活性化について、現地対策本部長である八幡浜・宇和島の両地方局長に話を聞いた。

そのほか、グリーンツーリズム、JAPANブランド、自治基本条例など、このころにわかにクローズアップされてきたキーワードをもとに記事を求めた。誌面スペースの都合で文字数が限られ、深い理解には及ばないかもしれないが、それぞれの事例と、そこに関わる人々に目を向けるきっかけになれば幸いである。

(編集子 兵頭)